

INDEX

2 2025

産業まつりで拓南ブース盛況／電話応対
コンで拓南勢健闘／知念亭長がオンライン
セミナー／全国産業安全衛生大会イン
大阪・近畿に参加／第1回「製品・サービス」
勉強会開催／拓南商事が「ゆいーまー」救急
ステーションに／拓南本社など「うまん
ちゅ救急ステーション」に／拓伸会がFC球
球に就製エシブル贈呈／第2回拓伸会フ
ットサル交流会実施 etc.

10 連載「拓南余話」④

【新北風】秋から初冬頃にかけて吹く北風。冬
の訪れを感じさせる。『沖刺』『辞典』(研究社)

拓伸会会報(隔月発行)

〒900-0025

沖縄県那覇市豊川3の2の4 [拓南ビル3F]

拓南本社内「たくしんNEWS」編集委員会

TEL.098-831-8228 FAX.098-832-0586

30年の節目 飛躍の新拠点

社屋新築工事竣工式・内覧会 拓南商事



9月16日から新社屋(左)で業務開始(オフィス機能を集約した1階)

拓南商事は9月2日、創業70周年記念事業の一環として建設を進めてきた新社屋を完成させ、竣工式と内覧会を行った。竣工式には、拓伸会関係者、建設設備業者、金融機関、行政機関など約55人が参加。内覧会には、沖縄県工業連合会、沖縄県産業資源循環協会、沖縄県金属資源工業会、近隣企業、取引先企業など約62人が参加した。また、地元紙、業界紙の記者が多数参加し、川上哲史社長と名嘉良治営業本部長のレクチャーを受け、地域の防災・環境・産業の最前線を象徴する新社屋を人念に取材した。

地元紙・業界紙が詳しく報道

創業72年の拓南商事は、現在地(うるま市州崎)に移転して30年になる。事業拡大に伴い職員も増え、点においていた事務所機能を一元化するため、3年前、新社屋建設を決定した。新築工事は、昨年5月に地鎮祭を行い、7月に着工した。

新社屋は、地上13・55メートルの鉄筋コンクリート造で3階建て(延べ床約1400平方メートル)。1階は、全国初となる自動計算機を本格稼働させ、利用客の利便性向上を図った。また、業務効率化を実現させるため、いままで分散していたオフィス機能を集約した。フリーアドレス制を導入し、事務スタッフ(45人)の働き方改革を図った。

2階は、多目的ホールをはじめ、各会議室を設置したほか、社員休憩室も設けた。なかでも女性休憩室は、「カフェ」をテーマに魅力的なレイアウトになっている。

浸水や津波のリスクを回避できる3階は、サーバー室、備蓄倉庫などを設置し、BCP(事業継続計画)を強化した。また、海拔16メートルに位置する屋上階は、天災に見舞われた際、拓南製鐵の津波避難タワー(300人収容)と連動し、地域や顧客の津波避難施設(320人収容)となる。

新社屋は、拓南グループで製造した製品(拓南製鐵「T-コン」「ネジテックコン」、拓南製作所「ワイヤメッシュ」

「鋼製ルーバー」「タクナンロード」等)が随所で使われている。琉球セメントの「ゆいーまー」認定コンクリート、RGC(琉球ガラス村)のアプローチタイルや花プロック

「時代に即した事務所、シンボルに」

竣工式は、普天満宮の神原神職のもと、2階の多目的ホールで厳かに執り行われた。

儀式は、修祓の儀から始まり、玉串奉奠、昇神の儀まで滞りなく進んだ。その後、神酒拝飲が行われ、各あいさつに移った。要点は下記の通り。

☆施主あいさつ

拓南商事 川上哲史社長
「新社屋の建設は、創業70周年記念事業の一環として進めてきた。竣工を機に、わた

しどもは決意をあらたにし、百年企業を目指して沖縄県の循環経済を全うしていく」

☆施主あいさつ

拓伸会 古波津 昇会長
「今後は、ソーラーパネルを設置するなど再生可能エネルギーの問題をひとつひとつクリアしながら、時代に即した事務所、会社のシンボル



川上哲史社長

古波津昇会長

ク埋め込みタイルなど県産資材も積極的に採用し、地場産業の発展にも貢献した。川上社長、名嘉良治営業本部長によるマスコミ向けレクチャーでは、それらの特徴も詳細に紹介し、地元紙、業界紙が報道した2頁参照(二部のみ掲載)。

「時代に即した事務所、シンボルに」
「新社屋に、津波避難機能が備わっている。防災意識の高い設計は、地域社会への貢献の姿勢を示しており、企業と市民が支え合う安全な環境づくりにつながる。敬意を表する」

☆来賓あいさつ
沖縄市副市長 平田嗣巳氏(花城大輔市長の祝辞代読)

「新社屋は、津波避難機能も備え、たいへん心強い。地域への貢献にあたたため感謝したい。今後、環境・防災・産業が融合する新しい拠点として地域に根付くことを祈念している」

☆設計業者あいさつ
ティ・エイチ・アール建築設計代表者 田盛隆博氏

「竣工式を迎え、久しぶりに参上して新社屋を眺めた。工事現場だとしか見えなかった景色が、すっかり風景になっていった。今後も、設計者として皆さんのリクエストに応えていきたい」

☆施工業者あいさつ

沖縄の産業まつり

技術研究開発のPR強化 安全衛生活動もアピール 拓伸会ブース

10月



開場式のテープカット(中央が古波津会長)



県内最大の総合産業展である第49回沖縄の産業まつり(主催:沖縄の産業まつり実行委員会)が10月24日から3日間、奥武山公園と県立武道館(アリーナ棟)で開催された。今回のテーマは「見つけよう 私の推しの県産品」。436の企業・団体等が出展した。第3会場(サブグラウンド)に設置した拓伸会ブースでは、鉄を中心としたリサイクル工程、各社の製品・技術を積極的に紹介した。今回は特に、技術研究開発のPRを強化し、グループをあげて取り組む安全衛生活動もアピールした。展示では、拓南製作所ブースでSIMデッキ、フェンスを初披露した。

開場式は10月24日、北明治橋アーチ前で行われた。大会実行委員会会長の務める沖縄県工業連合会の古波津昇会長(拓伸会会長)が開場あいさつに立ち、次のようにアピールした。

「沖縄の産業まつりは、本県の全産業を紹介する県内最大の産業イベントだ。長年にわたり、県産品の品質の向上や販路拡大を図るなど県内産業の発展に大きな役割を果たしている。年々進化する県産品の最新情報に接する絶好の機会だ。多くの皆様のご来場を心からお待ちしている」



古波津会長が開場あいさつ

雨天対策、熱中症対策も

まつり前日に、F.M.沖縄の人気番組「ハッピーアイランド」で拓南本社の知念馨技術開発研究室室長、神山エリさん、平田星来さんが紹介した拓伸会ブースは、前回のレイアウトをほぼ踏襲した。

来場者は、西側(アリーナ棟側)の入口へ足を踏み入れると、「拓南商事エリア」に導かれる。資源リサイクルの流れを紹介するパネル展示を見学し、子ども都市鉱山発掘体験会、インジェクション装置を使ったプラスチック・コマ作り体験を楽しめる。さらに進むと、拓南商事が共同開発したリサイクル商品の展示コーナーが前回同様設けられている。



「1頁より」
国場組営業第一部部長 島袋正秀氏 内閣耕社長の祝辞代読
「大きな災害や事故もなく、竣工式を迎えられた。拓伸会が掲げる循環型社会の形成という理念に基づき、環境配慮型という工事に施工者と
して携われたことを光榮に思う」
竣工式の終了後、記念撮影、内覧会を行った。新社屋での業務は9月16日にスタートした。

榊原神職のもとで竣工式



屋上階の津波避難施設

マスコミ向けレクチャー

防災強化型業務拠点に

拓南商事の新社屋完成

高い防災機能 延床面積は旧社屋の4倍

(上)「鉄鋼新聞」9月5日付

(左)「産業新聞」9月5日付

地元紙・業界紙が新社屋竣工を報道した。そのうち一部を紹介



外観2階部の鋼製ルーバー



再生スラグを使用した「タクナンロード」を施工



廃自動車ガラスを原料にしたアプローチタイル



開場式で川上社長(拓南商事)による空手演武

製作所等エリア」に移る。
拓南製鐵の製鋼工程・圧延工程、拓南製作所の線材製品製造工程・フォーミング商品製造工程・溶融垂鉛めつき加工工程、沖繩コーテック、JIS協会等の各パネルや商品が展示されている。
このエリアの新機軸は、拓伸会の安全衛生活動の紹介コーナー、拓南製作所のSIMデッキとフェンスの初展示だ。
拓南本社技術開発研究室の研究事例(微量元素による金属組織の変化、先端分光技術によるスクラップ選別、溶場再生スラグの開発等)の紹介も前回と同様、このエリアに展示された。(アリーナ棟「中城湾港新港地区モノづくり展ブース」では、技術開発研究室の活動内容をまとめたポスター資料や実験風景の動画等を展示。知念室長「6頁参照」が研究成果の説明に加え、現在進行中の課題等についても質問に応じた)「中庭」へ進むと、落書き大歓迎の廃自動車が今回も待ち構えていた。その先は「ゲームエリア」「景品交換エ

「今回は、技術研究開発のPRを特に強化した。来場者に、イベントやゲームを楽しむながら、県内で鉄がリサイクルされていることを知ってもらおう演出を目指した。スタッフには、事前Zoom説明会を今回初めて実施し、情報の共有化を図って本番に臨んでもらった。
ブースについては、雨天が予想されたので、来場者が濡

れず、しかも歩きやすくなるために、ブルーシートによる仮設屋根を設置し、木製あるいはプラスチック製のパレットを敷設した。熱中症対策(スポットクーラーの増設や塩分・水分の補給態勢)にも例年以上に配慮した。
また、展示では、親しみやすく見てもらうためにポップアップ(表示)変更も行った。うちわも各社のカラーに変更した。
スタッフには、作業環境を良くするため、休憩室を広くした。荷物置き場のラックも設けるなど休みを快適にとれるようにした。全員が、拓南パーキングに駐車できるよ



アリーナ棟でも技術研究開発をPR



楽しみながらリサイクルを学ぶ

うにも改善した」



FM沖繩「ハッピーアイランド」の「街角トビックス」は拓南本社で出前ナマ放送。拓伸会ブースをPR



ゲームエリアには今年も長い列



安全衛生活動をアピール



拓南製作所のSIMデッキは初紹介



拓南ブース前で記念撮影



拓伸会スタッフとFC琉球さくらの選手とシンペニーも囲んで



本社平田社區の息子たち...給授けきれっ!



産業まつりサイコー!ものづくりがたくさんできちゃった



暑くても、笑顔を飽やさずおもてなし



FC琉球さくらの選手とシンペニーとの記念写真、本社上原部長一筆で!



車にらくがきできてるのー!! イエーイ!!

拓南選手

電話応対コンで健闘

2度目の挑戦で3人入賞

予選を勝ち抜いた30人の選手が電話応対のスキルを競う「第41回電話応対コンクール沖縄県大会」(主催・日本電信電話ユーザ協会沖縄支部)が9月19日、ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城で開かれ、拓伸会関係者4人が出場した。コールセンターやお客様対応を専業とする選手が大半の中で果敢に挑戦し、3人が入賞を果たした。そこで、指導者を務めた拓南本社総合企画部統括課の島袋緑課長代理に大会参加の意義、今回で2度目となる挑戦を総括してもらった。また、入賞者3人を含む参加者6人に感想を寄稿してもらった。

総括

仲間が功を奏した

拓南本社総合企画部統括課長代理 島袋 緑

第41回電話応対コンクール沖縄県大会において、拓伸会より3人が入賞した。これは拓南グループの快挙で、参加者や支援してくれた役員をはじめ、仲間の努力が功を奏した。

今回初めてのグループ展開とあり、各社代表者との調整から入選、参加者への事前説明会、電話応対の基礎を学ぶ勉強会や練習と、実行錯誤を重ね取り組んできた。

目的は、拓伸会全体の電話応対技能を上げるのももちろん、我々が考える『電話を取らない、使わない』ではなく、このスキルがあらゆる面で活用できると理解してもらうこと。営業や来客・接遇

において、あらゆるシチュエーションのヒントになることを視野に勉強した。働く上で、正しい敬語の使い方や感じのよい話し方は社会人として必須である。電話応対のみならず、普段の業務にも生かせるという考えである。

時代の流れとともに、若い世代には電話恐怖症とよばれるくらい苦手意識を持つ者が多く、知らない人と話すことに違和感があるという。しかし、電話はコミュニケーションの可能性を広げるツールでもあり、ビジネスマナーのひとつとして社会人なら対応できるのが望ましい。そこで今回、拓伸会は人材育成のひとつとして導入した。

昨年は本社勢が出場するも県大会で敗退。入賞はかなわなかったが、挑む過程で多くの学びがあり、同志が同じ目標をもつことはチームを強くすると実感した。

コールセンターやお客様対応を専業とする方々と競い、畑違いの私たちが県大会へ進めたことにユーザ協会沖縄支部からも称賛の声があり、挑戦者は自信を得ることができた。それゆえ、今年度はグループ全体のレベルアップを目標に対応技能を学び、個人の成長ひいては顧客満足度が上がれば会社の成長にもつながる考えた。

4月に電話応対コンクールとは何かを説明し、参加目的、エントリーの意思確認、勉強会や練習は9月の大会まで長期にわたった。

練習内容は、電話応対を録音した音声データを聞いて自身の癖を知ることから始め、大会の概要や問題解説、スクリーン作成に発声練習、タイム測定を伴うロールプレイングなど工夫をこらした。ただ、陸南メンバーはオンラインでの対応となり、手薄になっていた気がないか気になることもあった。

『どの部署においても人と



〔沖縄タイムス〕9月20日付

の関わりは避けられない」ため、相手が何を言いたいのか・求めているのかを汲み取る力を養い(傾聴力)、寄り添う気持ちを含め(思いやり)の心・コミュニケーション力、指導を受けることで自身の応対を見直すきっかけになり(改善)感じのよい接し方、見えないからこそそのテクニック、さまざまな気づきを得て普段の業務に活用できる、という方針を共有した。

指導役を担った私たちも初めてのことで不安も多く、教育プログラムやマニキュア制作成、参加者のモチベーション維持にいたるまで暗中模索しながら務めてきた。

応対力はコミュニケーションをとる際に活用できる必ず、ひとつのチャレンジと考え、自己成長につながる信じ、「今より少し」今日より明日」の上達、その考えで取り組んできた。

沖縄県大会予選会には13人、鹿児島県大会予選会には3人、拓伸会の勉強会には拓伸大阪の2人も参加した。

手探り状態で進めてきたが、参加者が意欲的で協力的だったからこそ成り立ったのだと思う。おかげで慣れない運営側の私たちも多くの学びがあり、共に成長できたことに心から感謝している。業務の傍ら時間を削いで練習し、各社間の交流を持ち同じ目標に向かって切磋琢磨できたこと、弱点を仲間と一緒に改善に向けて努力したこと、チーム力を感じた。

大会当日、入賞者の番号を呼ばれた瞬間は、これまで奮闘してきた仲間の努力が目に見えた形となりものすごく感動した。参加者には『笑声』を意識し、学んだことを今後の業務でも生かし波及してほしいと伝えた。皆さんの努力は本当に素晴らしいものだった。本当にお疲れ様でした。

*運営は拓南本社が担い、花城可人次長・島袋緑課長代理が指導者、上原康志総合企画部長・金城実利主任、田名俊徳氏がアシスタントを担当。



(2列目左から)賞状を手に上原氏(審査員特別賞)、喜友名氏(新人賞)、知念氏(優秀賞)。県大会参加選手、審査委員、主催者と一併に

参加者感想

前向きな雰囲気づくりに感謝

拓南本社執行役員総合企画部長 上原康志

昨年に続き2回目の参加でしたが、頼りになる指導者が社内にいることが昨年と大きく違いました。電話応

対の良し悪しを客観的に適切に指導してもらえたことは、大きな成長に繋がりました。そのおかげで(私個人としては)笑声や電話応対スキルト時の声のトーンへの意識が大きい高まりました。さらに「声が聞き取りやすくていい」と褒めていただくことで、早口で活舌の悪い自分としては自信を持って競技に臨むことができました。

お二人(花城次長・島袋課長代理)は指導だけでなく参加者のモチベーション向上にも心を配ってくれ、勉強会への参加を前向きに感じられる雰囲気になっていたのが印象的です。

人の温かさが力をくれた

拓南製鐵 知念智香

初めは不安を抱えながら練習に取り組んでいましたが、拓伸会各社の方々と一緒に発声練習などを行うことで、次第に楽しみながら取り組むことができました。

今回、入賞できたのは決して私一人の力ではなく、これまで多くの練習時間を設けてくださった花城次長や島袋課長代理、業務を支えてくださった上司の方々、そして、うちわや温かい応援で力をくれた皆さまのおかげです。



発声練習の様子

電話応対コンクールを通して人の温かさに触れ、多くの学びを得ることができ、とても良い経験させてくださいました。本当にありがとうございました。

自分自身の成長を実感した

拓南製鐵 源古沙綾

電話応対コンクールには、電話応対の勉強になるといふなと思いましたが、

勉強会は楽しくワイワイと行い、休憩の時にはグループ会社の参加者といういろ

加者のモチベーション向上にも心を配ってくれ、勉強会への参加を前向きに感じられる雰囲気になっていたのが印象的です。

さて、今回「審査員特別賞」を受賞することができましたが、受賞によって皆さまを笑顔にできたことを本当にうれしく思います。指導者や共にかんがった仲間、コンクールに向けて協力していただいた皆さまのおかげです。ありがとうございました。



各社から駆けつけてくれた応援団とともに

なお話ができて良いコミュニケーションになりました。私は「状況に応じた対応やお客様に寄り添う気持ち」が伝わるように」を心がけて、沖縄県予選・県大会に挑みま

した。県大会出場の際は、上司や同僚が応援してくれました。「緊張すると思うけど、楽しんできてね」という言葉をかけてもらい、うれしかったです。今日は楽しむ気持ちでいこう」と会場へ向かいました。

会場には拓伸会からたくさんの方々が来ていて、応援の時に使用する名前入りのうちわも作ってくれていました。

本番はとても緊張して手が震え、いつもよりも長い3分間でした。自分の流れをう

A-1に負けない心のこもった対応を

拓南製作所管理課主任 喜友名千加子

電話応対コンクールに挑戦することを決めた当初は、自分に戻ってきたこのような機会を無駄にせず、何か一つでも学びになればという思いでスタートしました。

初めての勉強会で、録音した自分の声を聞いた時は、棒読みで抑揚の無い話し方に、気恥ずかしさを感じました。しかし、勉強会や練習を重ねていく中で、一緒に頑張っ

ワンチームこそ最高の収穫

西原グリーンセンター副支配人 新垣留美

ご安全に。初の電話応対コンクールは、残念ながら県大会へ進むことができませんでしたが、何より苦学分野にチャレンジしてスキルアップできたこと、そして、拓伸会16人の皆さんと楽しみな

がら学び、お互いを高め合えたこと、グループ全体としての連帯感を感じました。

また、電話応対コンクール勉強会のお陰で、自身の癖や改善点に気づき、定期的に練習をすることで電話応対がスムーズになってきました。

応対方法を考え直す機会に

薩南物産営業統括部主任 朝山由紀子

今回初めて、電話応対コンクール鹿児島県大会の予選に参加させていただきまし

た。コンクールに向けた通信電話ユーザ協会主催の研修会や拓南本社主催の勉強会

いる選手の方々と、親身になって指導して下さる花城次長、島袋課長代理のおかげで、日々成長することができました。

県予選の録音審査の際は、緊張で頭が真っ白になり、何を話したか覚えていないほどでしたが、県大会の本選では、会場の最前列で真ん中を陣取った拓伸会応援団の皆さんの心強い激励を受け、緊

張しながらも落ち着いて応対した結果、「新人賞」を受賞することができました。

練習で業務を抜けた時にフットしてくれた上司や同僚、一生懸命サポートしてくれた運営の皆さん、その他たくさんの方々のご支援のおかげです。本当にありがとうございました。

今回、自分を客観的に見て長所や短所を分析し、把握できたことは、非常に良かったと思います。A-1に負けない心のこもった対応を目指し、今後の業務にも生かしていきたいと思います。

することで、相手に心地良い印象を与える。それは普段の接客にも生かされると再認識できました。

今回参加したことで、電話応対の基礎力アップにつながり、拓伸会の皆さんとワンチームになれたことは最高の収穫になりました。

最後に、支えてくださった会社の皆様、親切に温かく指導してくださった先生方、指滑に支援してくださった運営側の皆様、貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

会になりました。

メンバート同士の交流も活発になりました。今後、他のメンバにも参加してもらうことで電話応対スキルの向上と社内コミュニケーションの活性化につなげていきたいと思っています。



鹿児島とのオンライン勉強会の様子



ペアを組んでロールプレイング

県内初「くるみんプラス」企業に

拓伸会3社認定 沖縄労働局で交付式

不妊治療支援に取り組む拓南本社、拓南製鐵、拓南商事が県内初となる「くるみんプラス」企業に認定された。沖縄労働局が10月23日、那覇第2地方合同庁舎で交付式を行った。柴田栄二郎・沖縄労働局長が拓南本社の古波津昇社長、拓南製鐵の八木実社長、拓南商事の川上哲史社長に認定書を交付した。地元紙「下記参照」は、各社長のコメントを紹介している。(敬称略)

使用できる。

「くるみん」とは、正式には「くるみんマーク」と呼ばれる厚生労働省お墨付きの子育てサポート企業のシンボルマークのこと。「次世代育成支援対策推進法」に基づいて子育て支援に積極的に取り組む企業に対し、厚生労働大臣が認定した企業だけが



(後列左から) 半田将司氏(雇用環境・均等室室長)、田嶋明氏(労働基準部長)、柴田栄二郎氏(沖縄労働局長)、松原大氏(総務部長)、中島千鶴氏(職業安定部部長)、(前列左から) 与那嶺瑠利氏(本社人事部長)、長濱安全統括室長、川上商事社長、古波津本社社長、八木製鐵社長、比嘉人事部長



(上)「琉球タイムス」10月24日付
(下)「琉球新報」10月24日付

今後、社員が「拓伸会」で

拓伸会全社は、特定不妊治療を支援する制度等を昨年6月制定し、さらなる働きやすい職場環境整備のため、男女問わず「育児と仕事」「けがや病気の治療と仕事」「不妊治療と仕事」を両立できる制度を制定しました。今回の認定はそれが認められてのもので、

今回の認定に限らず、拓伸会ではこれまでもさまざまな認定を取得してまいりました。この「認定」を取得す

より働きやすい職場環境へ

拓南本社人事部長 比嘉洋輔

では初となった。日本では、近年の晩婚化などを背景に働きながら不妊治療を受ける方が増加傾向にあるとされ、厚生労働省の調査では、仕事と不妊治療の両立ができずに16%の方々が離職しているという。拓南本社の長濱直次安全

統括室長によると、交付式後、柴田局長や労働局幹部との懇談で、不妊治療支援に取り組むきっかけを問われた古波津昇会長は「大切な社員のためになるのなら、会社が、費用の負担や休暇付与などできることはやってみよう」と述べた。拓南本社人事部長の比嘉洋輔次長に認定までの取り組みの経緯、認定の意義などについて寄稿してもらった。

知念室長、拓伸会研究開発事例を紹介

琉球大学のオンラインセミナーで

おきなわオープンファシリティーネットワーク主催の「おきなわオープンTECHゼミ」科学の技術と知識を地域とともに(Zoomによるオンラインセミナー)で、拓南本社技術開発研究部の知念響室長が8月29日に講演した。テーマは、「拓南グループにおける研究開発事例の紹介」高強度鉄筋の金属組織制御、副生成物の用途開発。

拓伸会は、事業活動を支える目的で学術的な観点による研究開発にも取り組んでいる。知念室長は今回、その一例として、金属組織の基礎研究(高強度鉄筋の金属組織制御)や鉄鋼スラグの用途開

鉄の生産・加工の裏側で

行われていた研究に関心

琉球大学研究基盤統括センター 特命講師 青山洋昭

琉球大学研究基盤統括センターでは、地域に開かれた研究基盤を志向し、県内機関の参加・協力のもと「おきなわオープンファシリティーネットワーク」を構築していま

働いて良かったと心から思えるような施策を実現できるよう、微力ながら尽力してまいります。

なお、今後は、すでに「くるみん認定企業」である拓南製作所および西原グリーンセンターにおきましても、2年後の更新申請に際し「くるみんプラス」認定の取得を目指し、取り組みを進めてまいります。

「おきなわオープンファシリティーネットワーク」は、研究・産業・教育に資する研究基盤の整備と利活用を促進し、沖縄全体の発展に貢献することを目的としています。その一環として、県内の技術交流を深める「おきなわオープンTECHゼミ」を継続的に開催しており、これまで多くの機関にご協力をいただけてきました。今回は「沖縄の産業まつり」でのご縁から、拓南本社技術開発研究部室長・知念響様にご講演をお願いする機会を得ました。

ご講演では、拓南グループの概要から現在進められている研究開発まで幅広い内容をご紹介いただきました。特に、県内で極めて高いシェア率を誇る鉄筋に関する



オンラインで講演する知念室長



(左から) 與那嶺氏、山内氏、長嶺氏、長濱氏、山川氏、赤嶺氏、長澤氏



拓伸会各社から7人参加

全国産業安全衛生大会イン大阪・近畿

9

第84回全国産業安全衛生大会が9月10・12日、「大阪万博」開催中の大阪市で開かれ、全国から1万人を超える参加者があった。会場は、万博会場から約5キロ離れた南港地区で、初日に総合集会所が開かれた。2、3日目は、8会場に分かれてマネジメントシステム・リスクアセスメントなど10の分科会が行われた。大会期間中のセッション、講演および研究発表等は約220題だった。拓伸会各社を代表して参加した役員に感想を寄稿してもらった。(敬称略)

座学と体験の組み合わせ教育事例

拓南本社専務 長嶺 巧

安全衛生大会の分科会にて、座学講習と体験講習を組み合わせた教育の事例をいくつか確認しました。指差し呼称の効果の教育をし、体感機で指差し呼称の有効性を確認する。あるいは、配管取替作業のデモ機で手順教育を指差し呼称も交えて行うなどです。

また、フォークリフト運用において、立入禁止が徹底し

印象的だったDX活用の取り組み

拓南製作所鐵構事業所工務部課長 赤嶺一也

私は、主に安全管理活動とゼロ災運動の活動事例について分科会に参加しました。

各社の発表の中で、指差し呼称の定着化やヒヤリハットの吸い上げなどの安全活動の継続性や、ヒヤリハットや過去の事故事例を生かしたゼロ災運動の重要性が強調されていました。ゼロ災運動は単なるスローガンではなく、日常の小さな確認や声掛けを積み重ねることによって実現できるという点に強く共感しました。

さらに印象的だったのが、

となりました。今後の安全衛生活動への取り組みにつな

行動を変える心理学に感心

西原グリーンセンター支配人 山内雅文

「安全の現場に求められるリーダーシップとは？」の講演で、「ほめすぎる」と気が緩み不安な状態になり、「認めてあげる」ではモチベーションが下がる傾向にある、という話がありました。理想は「支援すること」。成長・活躍しやすいように、支援・援助・鼓舞するような、リーダー奉仕的な行動がこれからのリーダーには大切であると学びました。

形骸化を起さないために

拓南製鐵製造部主任副課長 山川文誠

今回、私は、貴重な全国産業安全衛生大会に参加させていただきました。多くの研究成果や改善発表が行われた中で、特に気に留めた発表内容がありました。それは「形骸化したKY活動からの脱却」という内容でした。自身の職場に置き換えると形骸化は存在しています。人が、人の入れ替わりが多いなか、他社のことは思えず、また将来的にも見過ごせ

仕組みの構築の大切さ

拓南商事安全衛生委員 與那嶺史矩

安全衛生大会に参加し、全国の企業の安全衛生の取り組みについて拝聴した。ヒヤリハット活動や指差し呼称の定着化など類似している部分はあったが、大きな違い

とはそこに大きな違いがあった。安全に対する取り組みを継続して行えるように今回の事例を水平展開していく。また、今回、他の拓伸会メンバーを含む県内企業と安

AIとデジタルの活用有感

拓南本社安全統括室主任 長澤孝之

全国産業安全衛生大会2025に参加し、各企業の発表でAIやデジタルツールを活用した安全管理の取り組みが目立っていたことに感銘を受けました。

また、労働安全衛生法に熱中症対策の義務化が追加されたことを受け、緑十字展には関連機器やサービスの出展が多数見られ、現地での体

総括 未来に向けて職場環境の形成を

拓南本社安全統括室室長 長濱直次

労働者の安全と健康をめぐっては、5月の安衛法改正に伴い、50人未満の事業場においてもストレスチェックが義務化されることとなった。また、化学物質の自律的管理に向けた危険有害性情報の伝達や、高齢労働者の労働災害防止に向けた取り組みの推進など、さまざまな課題への対策が、今、拓伸会各社に求められている。背景には、急速な少子高齢化による人口減少社会へと突入する中、深刻化する人手不足に加えて、働き方の多様化、ダイバシティの進展など、就労環境のダイナミックな変化がある。大会会場の近くで開催さ

全取り組みなどについて交流することができ、有意義な時間を過ごすことができた。これからもゼロ災1000日達成のために精進していきたい。ご安全に。

最後に本大会参加の貴重な機会をいただいたことに、参加者を代表して感謝の意を表します。

第1回「製品・サービス」勉強会 実施

「一覧」の冊子を使用 拓南本社ESG推進室

拓南本社ESG推進室は、拓伸会会員企業の管理職に向けて第1回「製品・サービス」勉強会を8月下旬に実施した。そこで、勉強会の目的・内容について花城司人次長に寄稿してもらった。また、参加者の中から2人に感想を寄稿してもらった。(敬称略)

グループの製品・サービスを 広く理解するために

拓南本社ESG推進室次長 花城司人

8月26、29日、各社の営業スタッフの協力を得て、昨年発行した冊子「拓南グループ製品・サービス一覧」を使用した社内勉強会をグループ各社で開催(県内リアル開催、県外Zoom開催)しました。

参加者は、対象となる各社の課長以上の管理者のほか、若手管理スタッフや現場の班長の方々も多く参加しました。

勉強会では、各社の営業担当者から1項目2、3分で、製品・サービスの特徴、PRポイント、採用事例などを分かりやすく解説してもらいました。



拓南製鐵



拓南商事



拓南製作所



勉強会解説中の講師 (左) 拓南製鐵・営業部 比嘉次長 (右) 拓南製作所・営業部 渡嘉敷部長

解説後は、参加者からの質問・応答も活発に行われ、たいへん有意義な勉強会となりました。

8

松田副班長(石灰工場)を署長表彰

名護労働基準監督署

沖縄県労働基準協会北部支部等は9月10日、北部地区労働衛生管理推進大会を北部会館で開き、北部地区にある事業所・工場などの安全衛生担当者ら約100人が参加した。

席上、第4回名護労働基準監督署長表彰授与式が行われ、拓南製鐵石灰工場の松田智喜副班長が渋谷雄太署長より表彰状を授与された。

同表彰は、名護労働基準監督署独自の表彰制度で、北部地区にある各事業所で働く労働者の安全衛生に取り組む中堅社員をターゲットにしている。



(左から) 渋谷署長、松田氏

安全で働きやすい職場づくり

拓南製鐵石灰工場 副班長 松田智喜

名護労働基準監督署長賞という素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。安全衛生への取り組みは、拓南製鐵石灰工場として3年目の部会員として3年目になり、これまで、他社への事業場視察や安全法についての勉強会などに参加してきました。安全衛生についてはまだ

「ゆいまーる救急ステーション」

事業者登録

州崎地区の救急医療拠点に 拓南商事

拓南商事は9月2日、うるま市「ゆいまーる救急ステーション」の事業者に登録(認定)された。

うるま市における同事業者はこれまで15社しか登録されておらず、しかも、州崎地区にはなかった。拓南商事は、認定条件(応急手当普及員資格保持者勤務、AED設置、応急手当機材常設等)をクリアし、うるま市内の製造業者で初、州崎地区で初の事業者登録となった。

営業本部営業業務課の石川正人主任は、次のように感想を述べた。



(左) 認定書を受け取った福本将希常務

「当社が事業者登録したことにより、この地域でこれまでできなかった近隣企業への救急医療の提供が可能になりました。沖縄市の同事業者である拓南製鐵とともに、地域に根差したグループとしてイメージの向上にもつながると思います」



この勉強会に参加して、以前は現場で組み立てていたものを、製品化することで工期短縮や雨天でも作業ができるなど、効率化や人手不足に貢献している製品を製造していることが分かりました。

製品の進化を学ぶ機会に

拓伸商事(大阪)部長 上山浩代



今回、拓南商事で開催された製品・サービス勉強会に参加した。

普段の業務では接する機会の少ないグループ各社の製品・サービスの種類や特徴について、あらためて理解を深めることができました。

9



拓南本社と

たくなんＰに認定書交付

うまんちゅ救急ステーションに 那覇市

那覇市は9月13日、「那覇市救急フェア式典」を那覇市消防局で開催した。席上、うまんちゅ救急ステーションの認定書交付式が行われ、拓南本社、たくなんパーキングを代表して古波津昇会長に上原也那覇市消防局長が認定書を授与した。そこで、拓南本社安全統括室に、うまんちゅ救急ステーション認定制度の概要などについて寄稿してもらった。

うまんちゅ救急ステーション認定制度とは

拓南本社安全統括室

那覇市は、2012年9月から「うまんちゅ救急ステーション認定制度」を実施しています。

この制度は、市内において心肺停止した患者が発生した場合、その場に居合わせた人（バイスタンダー）が、救急車が現場に到着するまでの約10分間に、「うまんちゅ救急ステーション」のAEDを

用いて除細動を行い、一人でも多くの命を救える体制の整備のことです。

認定を受けた事業所の救命活動により、市民の救命率向上につなげ、安全・安心に過ごせる那覇市の環境整備が目的です。また事業所としては、救急救命を通して社会貢献している証明にもなります。市内には現在、拓



(左から) 上原消防局長、古波津会長、礼念寛市長

鉄製のエンブレムを贈呈

FC琉球、FC琉球さくらに 拓伸会

FC琉球の全島サッカー祭りが8月に開かれた。試合前の特設ステージで、拓伸会を代表して拓南製鐵の八木実社長がFC琉球とFC琉球さくらに鉄製エンブレムを贈呈した。そこで、拓南本社の上原康志部長にその様子を寄稿してもらった。

『TOUCH THE EMBLEM』に利用

拓南本社執行役員総合企画部長 上原康志

拓伸会は8月16日、FC琉球およびFC琉球さくらへ鉄製エンブレムを贈呈いたしました。

この日は、FC琉球による全島サッカー祭りが開催されており、贈呈式は試合前のイベントとして特設ステージにて行われました。

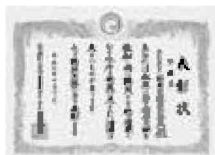
拓伸会を代表してプレゼンターを務めた拓南製鐵の八木実社長は、「沖縄県出身の選手のみならず県外出身の選手の皆さんにも沖縄を好きになってもらい、そして県民に夢と感動を与えてほしい」と激励のメッセージを伝え、多くのサポーターが見守るなかFC琉球の柳澤太輔社長へエンブレムをお渡ししました。

拓南本社およびたくなんパーキングを含めて15カ所しかありません。拓南本社には、①救命講習修了者が勤務時間に常駐している②AEDが設置されている③この要件が満たされているとして認定されました。拓南本社が、これからも継続して救命講習受講を続けてまいります。

拓南製鐵を優良講員として表彰

伏見稲荷大社附屬講務本庁

伏見稲荷大社附屬講務本庁は10月11日、講員大祭実行にあたり、拓南製鐵を「長年にわたり稲荷大神を敬仰し、特



に、講員として他の模範となり本庁の発展に尽くされた功績は大きい」として表彰した。稲荷大神は、「商売繁盛」の神様だが、全国各地の高炉メーカーから鍛冶屋に至るまで「鉄の神様」としても金屋子神とともに崇められている。拓伸会も、「鉄の記念日」の伝統行事「ふいごまつり（ふーちえー）」を稲荷大神の前で毎年行っている。

第2回拓伸会フットサル交流会

「健康経営」継続活動の一環

拓伸会は、2回目となるフットサル交流会を9月に開催した。そこで、ディレクターを務めた拓南本社の上原康志氏に寄稿してもらった。（敬称略）

製鐵GKのファインセーブに拍手

拓南本社総合企画部企画管理課 又吉史也

拓伸会は、第2回拓伸会フットサル交流会を9月25日に具志川ドームで開催しました。

昨年に続き、拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所として拓伸会を代表してプレゼンターを務めた拓南製鐵の八木実社長は、「沖縄県出身の選手のみならず県外出身の選手の皆さんにも沖縄を好きになってもらい、そして県民に夢と感動を与えてほしい」と激励のメッセージを伝え、多くのサポーターが見守るなかFC琉球の柳澤太輔社長へエンブレムをお渡ししました。

贈呈したエンブレムは、試合前後に選手やサポーターが勝利への思いをつなぐ『TOUCH THE EMBLEM』として利用されています。

なお、エンブレムは、拓南製鐵にて加工し、沖縄コーテック工業にて塗装しており、またエンブレム台は拓南製作所にて制作していただきました。ご協力いただいた皆さん、お忙しい中ありがとうございました。



エンブレムを贈呈した八木社長(右から2人目)



南本社から選手・応援を含め約50人が参加し、盛大な交流の場となりました。

今回は、「各社対抗の試合形式」を導入するとともに、継続して健康経営優良法人を進める上での施策の一環として推進体制の整備も図りました。今後は、各社が持ち回りで運営を担うシステムが整いました。

さて、注目の試合結果の順位は次の通りです。

1位・拓南本社／2位・拓南製作所／3位・拓南商事／4位・拓南製鐵

各試合の中で、特に印象的だった場面は、拓南製鐵の當山瑞樹課長（ゴールキーパー）の活躍です。特にファイナルセーブの際には会場全体が拍手に包まれ、全員が一体となって盛り上がり、まさにグループの結束を感じさせる場面でした。

フットサル交流会のおかげで、普段は接する機会の少ない他社の方々と交流ができ、また健康増進にも取り組むことができました。今回の交流会が、拓伸会としてのさらなる連携強化につながればと思っています。

次回はさらに多くの皆さまにご参加いただけるよう努めてまいります。

最後に、今回の運営を担当された拓南商事をはじめ、応援にお越しいただいた皆さま、そして健康経営ご担当の皆さまのご支援・ご協力に、心より御礼申し上げます。



第5回は関西方面へ

拓伸会合同社員研修旅行

第5回拓伸会合同社員研修旅行(知念正元・実行委員会委員長)が9月8日(10日泊3日)、奥平勉社長(拓南製作所)を副長に29人の参加者で実施され、関西方面を旅した。同研修旅行は、グループ間で垣根なく交流を図り、相互理解を深めることを目的としている。併せて、各県にある工場視察を通して知見を広げるとともに、旅行による離席で社内のBCP対策にもつなげていく。拓南本社財務部の大城豊次長に感想を寄稿してもらった。(敬称略)

加工技術を学ぶ貴重な研修に

拓南本社財務部次長 大城 豊

今回の研修旅行で視察した岸鋼加工は、鉄筋加工の最前線に立つ企業です。



視察してまず、フープ筋の全自動ラインとフープ筋の円形形状に驚きました。次



に、人が立って入れる大きさの鉄筋がこのパイルには、鉄筋の新たな活用を見出す思いがしました。また、鏡面のような切断面の精密切断に息をのみしました。最後に、鉄筋のねじ切り加工に目を見張りました。加工技術を学ぶ貴重な研修に参加でき、感謝申し上げます。

夏休みに入りまもなくして、父が戦地へ赴くことになり面会が許された。私はランドセルを背負った姿を見せたくて、持っていくことにした。「大きくなったな」。お母さんの言うことをよく聞いて兄弟仲良くするんだぞ」と言い、抱き上げてくれた。

戦地がどこなのか、わからなかったが1週間ほどして、フィリピンのマニラに着いたと絵ががきがきた。

8月の中旬になり突如、「疎開するので今夜10時に神社境内に集合せよ」と通達がきた。母は柳行李に必要最低限の物を詰め妹を背負い、兄と私はリュックに着替えなどを詰められるだ

け詰めた。数十家族が手配されたバスで駅へ向った。高雄駅には軍用列車が待機していて、各車両へ分散して乗せられた。汽車は真夜中に出発した。どれほど走ったのだろうか。ウトウトしているのに急に「ガタン」と止まった。すぐさまメガホンを持った兵がやってきて、

別人だった

戦争体験記②

黒島 善茂

「敵機来襲、直ちに避難せよ!」と大声で叫んだ。車両は灯が消され、漆黒の闇の中を無我夢中で逃げた。ところがそこは荒野らしく地表が凸凹で、そのうえ草が足に絡みつく。転倒しながらも必死で避難した。しばらくして警報解除となり、急いで乗車せよと伝

達ってきた。母の後を追ったのだが、緊張感が消えたせいかリュックがやけに重く感じ、自然と歩みが遅くなり少しずつ離れていった。昇降口でなんとか追いつき母のもんべ写真参照Ⅱを握って乗ろうとしたとき、振り返ったその人を見て別人だったのでびくりました。



戦時中女性が着用した「もんべ」姿

かと諦めかけた時、兵隊がリュックの肩紐ごと持ち上げてくれた。1人取り残されそうになった恐怖で、その兵の足にしがみつき震えていた。間一髪のところまで残留孤児になるのを免れた。列車は編成のため駅へ止まり、全員降ろされた構内はこった返しており、やっと母を見つけたが兄がいらない。私を探しに行ったという。しばらくして帰って来るなり、「何をばやばやしている。しっかりしないとだめだぞ」と叱られた。明け方、山間部に用意されている住宅へ着いた。そこで終戦まで過ごすことになる。(拓伸会 元名譽会員) び

拓南余話 24

編集 電話応対コンテスト県大会へ、予選を突破して出場した拓南生4人が大健闘しました。455員参加。表彰式後、「優秀賞」の栄冠を勝ち取った知念智志(製鐵)に「頑張ったね。さすがに疲れたでしょ」と声をかけたところ、こっくりうなずくや「お腹が空きました。そうだった。それが青春だ。(鈴木)